

日本の技EXPO

～文化財を守る自然の素材と匠の技術～

(選定保存技術発信事業)

計画書

日本の技EXPO～文化財を守る自然の素材と匠の技術～

- ▶ **日本博主催・共催型プロジェクト**：**選定保存技術発信事業**（主催：文化庁、全国文化財保存技術連合会、(株)NHKプロモーション）
- ▶ ~~日本博参画プロジェクト~~：~~選定保存技術公開事業~~（主催：~~文化庁、全国文化財保存技術連合会~~）**中止**

会期・会場

会場：東京国際フォーラム ホールE(1)、地上広場D
会期：令和3年1月9日(土)～11日(月・祝)

連携プログラム（文化財建造物修理技術現地ツアー等）〔国内9カ所〕 実施期間：令和2年10月頃～令和3年2月頃

目的

我が国の長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産である文化財を次世代に継承していくために欠くことのできない技術「選定保存技術」を紹介することを目的とした「選定保存技術公開事業」はこれまで日本各地で17回にわたり開催されてきた。そして2020年度は初の東京開催となる。2020年の東京での開催は、今まで伝えきれなかったより多くの国民や訪日外国人に、日本の文化財を支えてきた卓越した技術の存在を広く紹介することを目指し、従来の実施内容に加え様々な工夫を凝らしたアプローチを行いたい。日本博での開催をきっかけに古来より培われた日本の自然の素材を活用した貴重な技術を後世に伝えていく機会とするとともに、今後、より広く国内外に知らしめ、後継者の育成を促すことも目的とする。

また2020年10月にユネスコ無形文化遺産に登録予定の「伝統建築工匠の技」についても合わせて紹介し、日本が世界に誇る技術の発信の契機とする。

さらに、約5か月にわたって文化財建造物修理技術現地ツアーを中心に、講演会などの連携プログラムの全国各地での実施など、3日間の東京国際フォーラムでの実施のみならず、日本博にふさわしい多角的な事業展開を行う。

目標

文化財建造物修理技術現地ツアー等連携プログラムを、東京国際フォーラムでの3日間のイベント開催を挟んで、秋から翌年2月中旬にかけて実施し、トータルで3万人の参加を目指す。

建造物、工芸、芸能など多岐の分野にわたる日本の文化財保存技術をわかりやすく紹介するために、映像を新たに多言語対応(日英)で作成し、開催中に上映するほか、公式HP上での閲覧を可能にし、以後の事業展開でも広く利用するなど、本事業の実施を契機に更に国内外に「文化財保存技術」を紹介することのできるプログラムを実施する。

日本博主催・共催型プロジェクト：選定保存技術発信事業

プロジェクト①

文化財建造物修理技術現地ツアー等連携プログラムの実施 (詳細P4~6)

令和2年秋から翌年2月にかけて、文化財建造物修理現場の見学や工房を訪ねるツアー、人間国宝による講演会、出前授業などを日本各地(12か所を予定)で実施する。見学時には英語の通訳ガイドを配置し、インバウンドに対応する。

プロジェクト③

選定保存技術を映像とパネルで見せる*多言語(日英)

(詳細P10)

各技術をコンパクトにまとめた映像集を制作。日本の文化財技術の結集となる本映像資料は今後、インターネット上にアップし世界からアクセスできるようにするほか、会場で大型スクリーンに投影する。また、34団体の技術をわかりやすくまとめたパネルを統一規格で制作する。写真を多用し、説明文は日英表記とする。パネルの内容は公式HPでも閲覧可能とし、来場者への興味喚起を促す。

プロジェクト②

伝統的建築物の復元 (詳細P7~8)

木工・屋根葺・左官・装飾・畳など建築技術分野の技術を結集して日本の伝統建築を復元する。各分野の職人が建造物を造り上げていく現場をライブで公開。職人の技術を間近で見ることができる。またそのすべてを細部にわたって技術者が紹介する。木・草・土などの自然素材を建築空間に生かす知恵、周期的な保存修理を見据えた材料の採取や再利用、健全な建築当初の部材とやむを得ず取り替える部材との調和や一体化を実現する高度な技術。建築遺産とともに古代から途絶えることなく伝統を受け継ぎながら、工夫を重ねて発展してきた伝統建築技術を目の当たりにできる。

プロジェクト④

インターネットによる発信 (詳細P10)

事業の周知のほか、選定保存技術そのものを紹介するための公式HPは日英表記とし、会場の様子をSNSなどで配信する。本事業終了後、文化庁のHPで映像資料、選定保存技術の説明(日英)の閲覧を可能とするほか、イベント会場の様子も動画で公開し、世界に発信していく。

* 本事業計画は、新型コロナウイルスの感染状況により、変更することがあります。

プロジェクト①-1

文化財建造物修理
技術現地ツアー等
連携プログラムの
実施

連携プログラムを秋から約5か月にわたって展開

文化財保存技術現地ツアー、講演会など文化財保存技術に興味を持った方にさらに深くその技術を知っていただけるプログラムを実施。日本各地で実施することにより、地方誘致にも寄与する。

文化財建造物修理技術現地ツアー

全国展開する国宝・重要文化財建造物保存修理事業の工事現場を、日本博2020に合わせて一斉公開し、文化財建造物の保存修理の魅力を幅広く発信する。また、単なる「文化財建造物」の紹介だけでなく、保存修理のための大工、屋根葺替、左官等の伝統技術や建てられた当時の時代背景及び生活文化を紹介し、日本文化を総合的に発信する新たな観光の見所として充実を図る。

協力：(公財)文化財建造物保存技術協会

※「災害により被害を受けた文化財」修理現場公開

昨年の台風、大雨により千葉県内の文化財は大きな被害を受けました。現在重要文化財の建造物の修理工事が進められています。現場公開により誘客し、被災地の復興支援にも寄与する。

(2020年10~12月実施予定、定員50~100名)

<候補>

- ・旧尾形家住宅(南房総市) ・石堂寺(南房総市) ・栄福寺(印西市) など



尾形家被害

※全国各地の国宝・重要文化財建造物修理現場公開

全国各地の現在修理工事中の国宝・重要文化財の建造物の現場を公開します。(2020年10~12月実施予定、定員50~100名)

<候補>

- ・金野諏訪社 本殿の解体修理 (長野県下伊那郡泰阜村)
- ・小幡家住宅 土蔵の屋根(瓦)の吹替え工事 (島根県松江市宍道町)
- ・願興寺 本堂の解体修理 (岐阜県可児郡御嵩町)



金野諏訪社



願興寺本堂